

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	荒 金 誠
2. 審査委員	主 査：（岡山大学教授） 尾上 雅信 副主査：（岡山大学教授） 寺澤 孝文 委 員：（鳴門教育大学教授） 木内 陽一 委 員：（岡山大学教授） 高瀬 淳 委 員：（岡山大学教授） 安藤美華代 委 員：（神戸大学教授） 渡邊 隆信
3. 論文題目	フランクルにおけるロゴセラピーの形成 — 第二次大戦前の思想と実践に着目して —
4. 審査結果の要旨	<p>学校教育実践学専攻学校教育方法連合講座 荒金 誠 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：平成30年2月17日（土） 14時40分～15時10分</p> <p>場所：兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス 講義室2</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>本論文は、第二次世界大戦前のフランクル（Viktor Emil Frankl, 1905-1997）の思想と実践に着目して、その独自の心理療法ロゴセラピーの形成過程を検討するものである。以下に、本論文の構成と概要を示す（節以下のタイトルは省略）。</p> <p>序章 研究の課題と方法</p> <p>第1章 力動性心理学の受容とその批判的継承</p> <p>本章では、フランクルが生を受けた当時のウィーンの精神的な風土を検討し、若き日におけるフロイトの精神分析、アドラーの個人心理学との出会いと離反の過程を分析する。フロイト、アドラーの心理学に影響を受けつつ、両者を一種の還元主義の陥穽に陥っていると批判、その限界を乗り越えるために、哲学的思索からの知見の必要性を認識した点を明らかにした。</p>

第2章 シューラーからの思想的影響

本章では、フランクフルが哲学者シューラーから受けた思想的影響を追究する。シューラーを通して、心理的・身体的なものに対する「精神 (Geist)」の優位性を認める人間観を学び、人間の中に精神的な実存の自律性を見出し、心理療法の新たな地平を切り開く土台となったことを指摘した。

第3章 青少年相談所の設立とその活動

本章では、フランクフルが設立した青少年相談所の設立経緯とその活動を検討する。1928年にベルリンの相談所をモデルに、フランクフルがウィーンに設立した青少年相談所は最初の1年で約700人の相談者が来訪した。苦悩する青少年たちに対する相談助言活動を蓄積したフランクフルが新しい心理療法の構想への関心を深めていく過程を明らかにした。

第4章 ログセラピーの構想

本章では、青少年相談所におけるフランクフルの実践的活動の経験が、シューラーの哲学的人間学と結びつくことでログセラピーの構想へ展開するプロセスを扱う。困窮の中にあっても勇敢に苦境に立ち向かう青少年たちの存在に触発され、さらに人間の自由意志を重んじたシューラーの哲学的人間学から示唆を得たフランクフルは、使命と責任の自覚以上に人間に力を与えるものはないと確信し、ここにログセラピー構想の契機を見出したと指摘した。

第5章 ログセラピーの人間観

本章では、ログセラピーにおける人間観、とりわけログセラピーの理論的根拠ともいえる「精神 (Geist)」とは何かを究明する。フランクフルは、人間には身体的また心理的現象に従うか立ち向かうかを定める主体的な決断の自由があり、その決断の場こそ「精神」の次元であると考察していたことを明らかにし、こうした人間観を基盤としたところにログセラピーが構想されることを指摘した。

終章 研究のまとめと課題

2. 審査経過

本論文は、フランクフルがログセラピーの思想を形成する過程を学問・思想的な影響関係および相談所における実践の両面からアプローチしたものである。

その審査においては、主に次の二点について従来の研究成果を超えるすぐれた成果を収めていると評価された。第一に、第二次大戦以前のフランクフルに着目し当時の第一次史料を活用することで、ログセラピー構想の基本が戦前の時点で確立していたことを指摘できた点である。とりわけ青少年相談所にかかわる事績を明らかにできたことは高く評価された。第二に、哲学・思想的な影響関係のみならず、青少年相談所における相談実践を中心にした実態面からのアプローチを試みた点である。史料制約はあるものの、実践の内実を明らかに

したことは、思想的な影響関係の解明に強い実証性を与える成果をもたらしたと評価された。

その一方で、本論文の不十分さも指摘された。たとえば、西洋思想の根本とも言える宗教とくにプロテスタント思想の影響関係の分析が不十分であること、また、シェーラーからの影響についてはさらに踏み込んだ検討が必要であったなどの意見である。

しかしながら、全体として本論文は従来のフランクフル研究の限界を超え、ロゴセラピー構想の基盤となる人間観の形成過程と内実を明らかにし、今後のフランクフル研究に大きな展望を与え、かつ、そこで明らかにされた人間観、すなわち人はすべて生きる意味を求める存在であるとする人間観の析出は、教育とくに教師―生徒関係のあり方の考察に有益な示唆を与えるものであると評価された。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、荒金 誠 の提出した学位論文が、博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。